

2012/03/20 文責

原子力・放射線部会幹事 根岸孝行

日本技術士会 原子力・放射線部会

日本原子力学会 原子力研究・教育小委員会 共催

「第4回技術士の集い」概要報告

日時 ; 平成24年3月20日(火) 12:00~13:00

場所 ; 福井大学 文京キャンパス A会場

(日本原子力学会 2012年春の年会)

司会進行 ; 林克己

参加者 ; 22名

配付資料 ①「原子力・放射線部門」技術士試験統計情報

②原子力安全確保と技術士の役割 岡本孝司教授(東京大学)

③東日本大震災の復興支援への取り組み状況の報告

④福島第一原子力発電所事故対応と技術士の役割 後藤廣

1. 技術士の集い開催にあたって

(工藤和彦 原子力研究・教育小委員会委員長、九州大学教授)

工藤先生より、第4回技術士の集いの開催にあたって、「原子力・放射線部門」技術士試験統計情報の紹介や技術士への期待に関するお言葉を頂いた。主な内容は以下のとおり。

- ① 技術士に原子力・放射線部門を新設して、平成24年度で9年、平成25年度には10周年という大きな節目を迎える。しかし、最近の試験統計情報を見ると、受験者数が減少しており気になっている。この状況を踏まえ、今後も減少傾向が続かないよう原子力・放射線部会全体で受験者数の確保など、活性化させて欲しい。
- ② 3.11以降、原子力は厳しい局面を迎えているが、このような時こそ、原子力・放射線部門の技術士の存在感を示すときであり、今後の技術士の活動に期待している。



2. 原子力安全確保と技術士の役割 (岡本孝司 東京大学教授)

岡本先生より、「原子力安全確保と技術士の役割」という内容でご講演頂いた。

ご講演では、岡本先生が原子力安全確保の中で特に重要と考えている3つの項目として以下の紹介があり、すべてにおいて「人」が大切であるとの考えが示された。

a. 深層防護 (Defense in Depth)

深層防護を考える上で重要なのは、経験と調査に基づく事象の想像力である。

b. 安全重要度 (Graded Approach)

安全重要度を考える上で重要なのは、安全の本質を見抜く力である。「何が重要で、何が重要でないか？」等を考え、規制、事業者ともに重要度を重視した仕組みに改善すべ

きである。

c. 継続的改善 (Continuous Improvement)

継続的改善を考える上で重要なのは、安全に関する新知見を見出す力である。米国の規制体系では、新知見を反映し、改善をするとコストメリットがあり、逆に継続的に改善しないと検査が増えコストが増える仕組みとなっている。このように、インセンティブを与えるなど、日本においても継続的な改善をうながす規制の仕組みが必要である。

また、以上の3つの項目にリンクする「人」の存在として、「継続的研鑽、経験の蓄積、技術者倫理」を兼ね備えている専門家の技術士が適任であり、「技術士が活躍すべき場」として原子力安全確保の活動に積極的に取り組んでもらいたいとの期待が寄せられた。



その他、「原子力安全の鍵」として、これまで説明した3つの項目に加え、目的の明確化「人と環境を守る」や人のクオリティ確保に関しても重要であるとの説明があり、Safety Culture and SAHARA の考えについても「原子力安全の鍵」として大切

であるとの紹介があった。

3. 原子力・放射線部会の福島復興支援活動 (桑江良明 部会長)

桑江部会長より、原子力・放射線部会における福島復興支援活動に関して最近の取り組みについて紹介があり、これまで、主に被災者と直接向き合う活動を中心に取り組んできたとの報告があった。第3回技術士の集い以降、最近の主な活動状況は以下のとおり。

① 「事故解説チーム」の発足

事故解析チームでは、技術士の持っている知識やこれまでに行った福島事故に関連する説明会・講演活動などの内容を集約し、部会員が今後の説明会・講演活動等に活用できるよう標準的な資料を作成しまとめる活動を中心に行っている。



② 富岡町災害復興ビジョン策定委員会への参画

原子力・放射線部会の役割として、放射線・放射性物質に対する事実の誤認が原因で議論が誤った方向に向かわないように客観的なアドバイスをを行っている。

③ 「除染情報プラザ」への参加

現在部会員 20 名が除染情報プラザに専門家として登録しているが、除染に関する専門知識を持っている人材は限られており、今のところあまり活発な活動ができていない状況にある。今後、部会内で経験を蓄積・共有し活発な活動に繋げていきたい。

④ 都内「避難者交流会・相談会」への参加

他の士業とともに部会員が参加し、放射線や汚染に関する質問に対応している。

⑤ 社会人向け公開講座「知の市場」への参加

来年度、実施予定の公開講座に、部会から講師を派遣する予定である。この活動は、福島復興支援活動に直接関係するものではないが、一般の社会人に広く放射線や放射性

物質に関する基礎知識を教えることで、世間の誤認や誤解の回避活動に繋がると考えている。

その他、桑江部会長からは、これまでの経験を通して、技術士の立場であれば色々な支援活動に入り込んで行けることや、我々技術士が出来たことは被災者の多大な苦難に比べれば微々たるものであり、今後も被災者と直接向き合った活動に取り組んで行きたいとの話があった。

また、福島事故の再発防止に向けた更なる活動として、今後は他部門の技術士も巻き込んだ福島事故に関する本質的な議論をして行きたいとの決意が示された。

4. 福島第一原子力発電所事故対応と技術士の役割 (後藤廣 副部会長)

後藤副部会長より、事故対応に対する原子力・放射線部会の取り組みや、各事故報告書での専門家・技術者に関する指摘において技術士として注目すべき内容について紹介があった。

また、2012年3月2日「第29回技術士の夕べ」にて実施した、事故と技術士の役割に関する他部門の技術士との意見交換会で出た意見や内容について報告があった。

参考に、他部門の技術士から出た主な意見を以下に示す。

① 除染活動等、他部門との連携を考えて行動して欲しい。

例えば、農業を知らずして、原子力の専門家だけで田畑の除染作業を考えるのは問題がある。農家の人々は、先祖代々、2~5cmの田畑の改良を行うために1年の2/3を費やしている。除染作業として、この2~5cmの土を安易に取り除く方法などは、除染はできるかもしれないが農家の視点からの対応にはなっていない。今後、水産や農業などの状況を知ってもらうためにも、お互い技術士として話し合う場を設けてもらいたい。

② 自然災害が起こることを前提に、自然との共存を考慮すべき。

まとめとして、技術士の役割については「技術士ビジョン 21」「技術士プロフェッション宣言」「技術士倫理綱領」等に述べられているが、福島第一事故を踏まえての役割としては以下が大切との話があった。

- ✓ 専門的知見に対する信頼性回復のためのコミュニケーション。
- ✓ 技術士会他部門と連携して、幅広い見識を持った情報発信を行う。
- ✓ 正しい技術情報を、信念を持って積極的に発信する。



5. その他

今回の第4回技術士の集いでは、講演内容が多く、参加者による意見交換会が実施できなかった。日本原子力学会 2012年秋の大会(広島)において、技術士の集いを行う計画であり、次回は意見交換会を行いたいとの話が司会進行よりあった。

